日本共産党の地域新聞　発行所：日本共産党夕張市委員会　夕張市千代田２番地の１　TEL &FAX　52-3097　　2015年５月24日（日）1501号(1)

民報ゆうばり

「戦争する国づくり」ストップ！！

共産党が全国一斉街頭宣伝・署名行動

5月17日、日本共産党夕張市委員会は、「戦争する国づくり」ストップ！全国一斉行動に呼応して、街頭宣伝と「戦争立法」反対署名をおこないました。

午前中の署名行動では52筆が集まり、「もう絶対に戦争はしてほしくないね」「本当にご苦労様です」などの反応。

くまがい桂子市議は午前・午後合わせて22か所で訴え、戸口で最後まで聞いている人や通行中足を止めて聞きいる人、「がんばってください」との激励もありました。

街宣の概要をお知らせします。

◆

◆

◆

世界中の戦闘地域で自衛隊が軍事支援！

自民・公明の安倍政権は、「平和安全法制」なる法案を国会へ提出、今国会で成立させる構えです。

その中身は、①米国が世界のどこであっても戦争をはじめたら、自衛隊が「戦闘地域」にまで行って軍事支援をする

日本が攻撃されなくても米国の先制攻撃でも参戦

②日本に対する武力攻撃がなくても、ときの政権の判断で集団的自衛権を発動し、米国の先制攻撃の戦争にも参戦する、というものです。

日本国憲法のもとで、歴代の自民党政権でさえできないとしていた、「集団的自衛権」の行使をはじめ、海外派兵の制約を取り払い、いつでも、どこでも、侵略戦争でさえ日本が参加するようになる「戦争法案」にほかなりません。

歴代の自民党政権は「日本に対する武力攻撃がないもとでの武力行使は許されない」と自ら制約を課してきました。

それは、憲法９条をもつ国だからです。

ところが「戦争法案」では、わが国の存立が脅かされる「明白な危険がある場合」は、「日本に対する武力攻撃がなくても武力を行使できる」ことに、変えるというのです。

憲法9条を骨抜きに！

これは、どんなに条件をつけたとしても、もう完全に憲法を越えてしまっているのです。

安倍政権は本気でこの法案を通そうとしています。

しかし、恐れる必要はありません。

つじつま合わせに苦しみ、国民の猛反発が起きる前に実現しようと焦っているのは、安倍政権の方だからです。

「人を殺し殺される国」になるのは憲法違反です

自衛隊員をはじめ、国民が海外での戦闘行為に巻き込まれ、「人を殺し、殺される」国になってしまうという憲法違反の本質は、隠しようがありません。

戦後、自衛隊をつくり、一連の海外派兵法をつくっても、海外で「人を殺し、殺される」ことがなかったのは、憲法９条をしっかりと守ってきた、私たち国民のたたかいがあったからです。

憲法を持つ国家は、憲法で禁止された行動はできないし、憲法違反の法律はつくれないのです。

そして、そのことをしっかりと政府に守らせるのは、私たち国民の役目です。

―この戦後最悪の暴挙を絶対に許さず、廃案に追い込むために、ご一緒に全力を挙げようではありませんか。

大切な人を戦場に行かせない！

STOP戦争立法！憲法9条を守ろう！

夕張労連は、土日の2日間、約2時間ずつにわたり、「STOP戦争立法」の看板を車に載せ、市内全域をテープを流しながら行動しました。

全労連の呼びかけで、「大切な人を戦場に行かせない！」「憲法9条を守ろう！」と市民へうったえました。

雨の合間の暖かい日差しが降り注ぐ中、畑仕事に精を出す人や、休みの小学生たちが顔をあげて聞いてくれました。

夕張労連は、今国会、派遣法制の大改悪など、次々と悪法を重ねる安倍自公政権に、言いたいことはたくさんあります。

「市民のいのちとくらし」を守る夕張労連は、今回『安全保障法制』という名の「戦争立法」に反対することが、最優先課題と考えました。

第86回メーデー夕張集会で、『安全保障法制』のカラクリについて参加者でしっかり勉強しました。

「もう私たちはだまされません。全国の働く仲間とともに、反対の声を草の根の運動として続けていくつもりです」と熊谷事務局長は闘志を見せていました。

★日本共産党　夕張市委員会へのご連絡・ご相談はお気軽にどうぞ～ Tel/Fax：0123-52-1013　e-mail：icp.yubari@gmail.com

鹿ノ谷ゼミ開催

5月16日、日本キリスト教会夕張協会において、第22回鹿ノ谷ゼミナールが開催され、「地方史（自治体史）の可能性を求めて－新しい「夕張市史」を編む－」と題し、宮崎伸光法政大学法学部教授が講演を行いました。

宮崎教授は、「祖父や父が一時期夕張で暮らし、鈴木市長は教え子。また、09年からはゼミの学生とともに『夕張ボランティアツアー』を継続してきた。市民目線で、市民の記憶を喚起し、政策選択の幅や市民運動・住民運動なども歴史として残すために、私たちがお手伝いをして、映像を含めた市史をマルチメディア化したい」と話していました。

くずさんの夕張歴史散歩(26)

労働至誠会の消長

呑んで食らってその日暮らしの「坑夫くらし」から自らを取り戻しつつ、遂にこの夕張で、抵抗の砦を築いた歴史的瞬間でした。

しかし、結成された労働至誠会とて順風満帆とはいきません。

この会に参加した人びとは、炭鉱坑夫に限らず新聞記者であったりキリスト教の信者であったり、いろんな人びとの集まりでした。とにかく炭鉱のひどい労働に抗議する人たち、または坑夫の日常生活向上をめざす人道主義的な立場の人びとなどが集まっていて、必ずしも思想的に統一されたものではありませんでした。

しかし、待たれていた組織だけにまもなく千三百余名が結集します。

かかげた目的は

そして「至誠会の憲法」とした四ヶ条には

①労働者の品位を高むること　②孤立自営の精神を涵養すること　③勤倹貯蓄を実行すること　④会員互いに相助くること

となっています。

ここでも、個人の努力をもとにしたいわば精神主義を強調し、労働者の負っている階級的使命にはまったく触れられていません。

北辰日報の総務で至誠会では副会長の「小山恒次郎」は、『至誠会が資本家と労働者との調和を計らんとして起ちたることを知るべきである・・・・』と労資協調の立場を主張します。

脱退者あいつぐ

会長だった坂本直寛が結成六ヶ月後の11月には早くも離脱、旭川で伝道活動に入ります。その後、小山恒次郎もたもとを分かちます。加えて、折からの治安警察法の嵐のなかで『明治36年夏より漸次衰運に傾き』脱退者が相次ぎます。

主唱運動員としての南助松、ピンチです。

安倍政権のもろさと弱さ

畠山　和也「国会かけある記」

日本共産党衆議院議員

はたやま　和也

暴走のきわめつけと言える「戦争立法」を、安倍首相のもとで閣議決定しました。首相は「戦争立法」と言われることに「安易なレッテル貼りだ」と強弁していますが、他国の軍隊を後方支援もでき、アメリカとの集団的自衛権を盛り込んで「平和安全法制」などと呼べるはずもありません。

衆院本会議で赤嶺議員は、首相が安易に米国議会で成立を約束する演説したことを批判しました。答弁ではわが党に目も向けず、投げやりのように淡々と原稿を読む姿に「心配や反対の声には、ていねいに説明すると言ってたじゃないか！」とヤジも飛びました。

同じ風景はこの前日、私が本会議で農協法改定案の質問をした時にも見られました。首相は米国議会での演説で、自分が農業解放に反対していたことを「血気盛ん」だったと述べたのです。私から、当時は自民党として、この本会議場で反対していたじゃないかと指摘したことに、首相は答弁でまったく触れませんでした。

正面から答えられない安倍政権にはもろさがあります。大事なことは、国民の声の高まりだと思います。十六日全道から集まった「ＴＰＰの国会決議を守れ」集会とデモ行進は熱気があふれていました。沖縄では新基地建設ストップへ三万五千人が集まり、大阪市でも住民投票で「大阪市解体」に反対が多数となりました。

国会では与党が多数でも一つ一つの政策では国民の声こそ多数です。暴走ストップへ、引き続き国会でもがんばります。